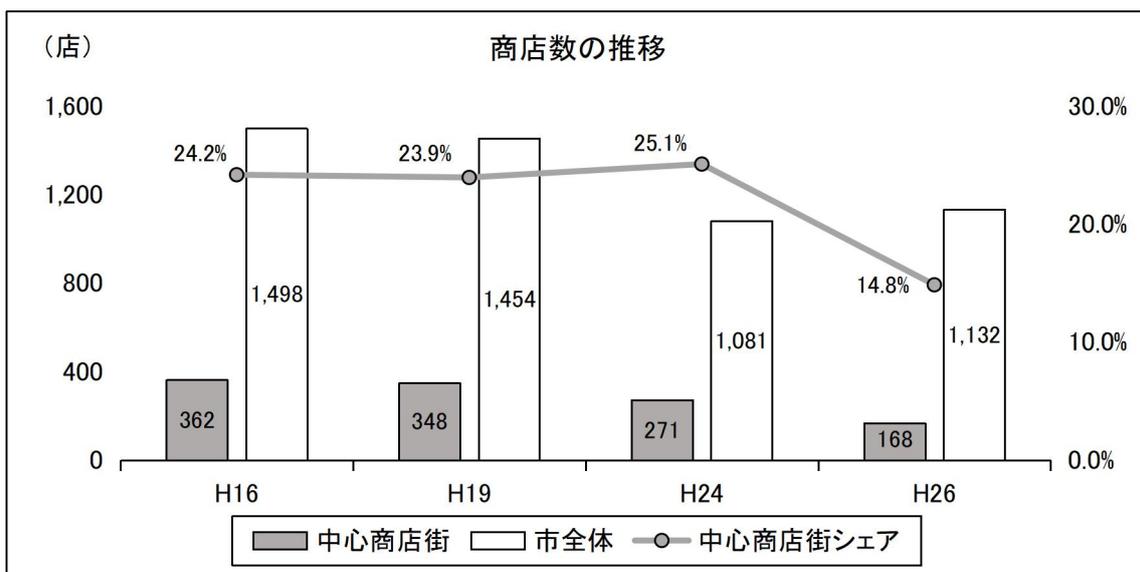


(2) 経済活力関係

① 小売業の状況

ア 商店数

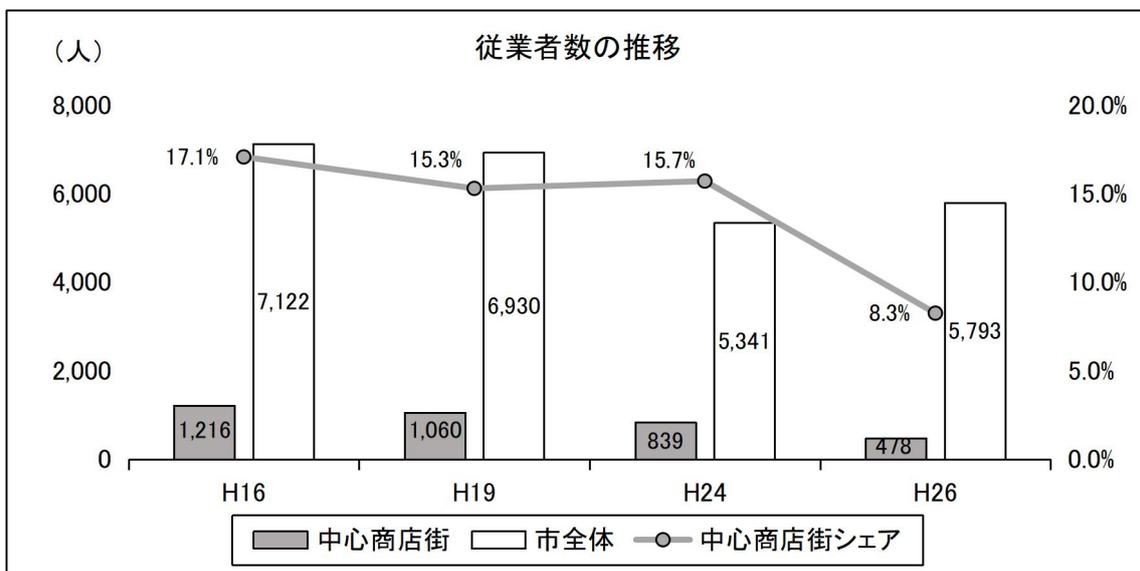
中心市街地における商店街形成区域（以下、中心商店街という。）の商店数は、平成16年から平成24年の間に91店、およそ25%減少している。（平成24年までと平成26年は、集計対象範囲の変更があったため接続しない。イ、ウ、エについても同じ。）また、市全体に占める中心商店街の割合は0.9%増加している。



資料：「平成26年商業統計調査結果を基にした高山市の商業」

イ 従業者数

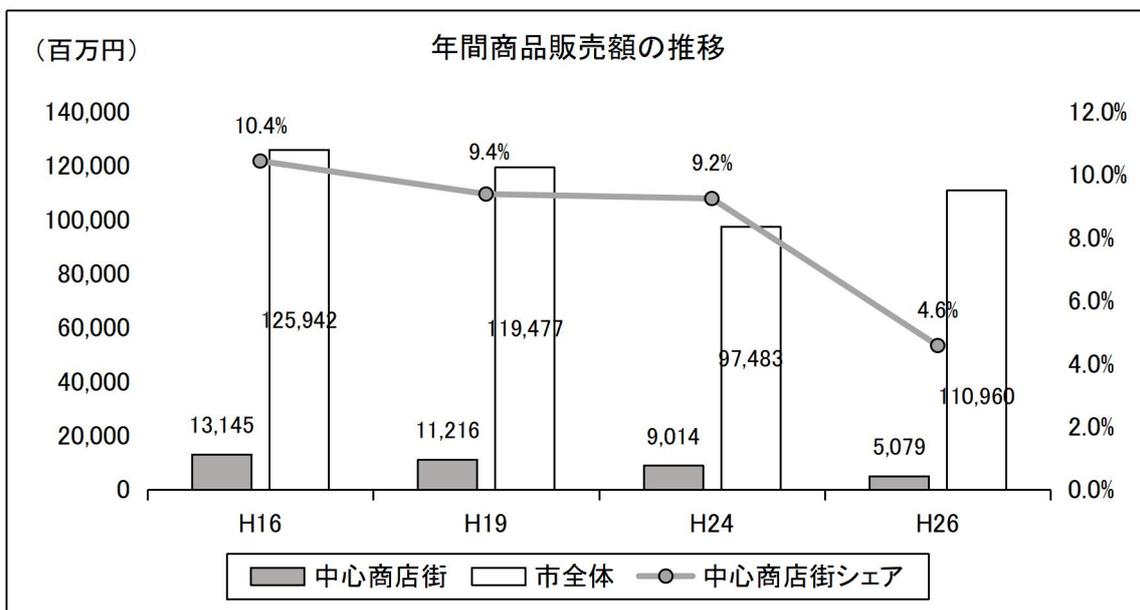
中心商店街における従業者数は、平成16年から平成24年までの間に377人、およそ30%減少している。また、市全体に占める中心商店街の割合は1.4%減少している。



資料：「平成26年商業統計調査結果を基にした高山市の商業」

ウ 年間商品販売額

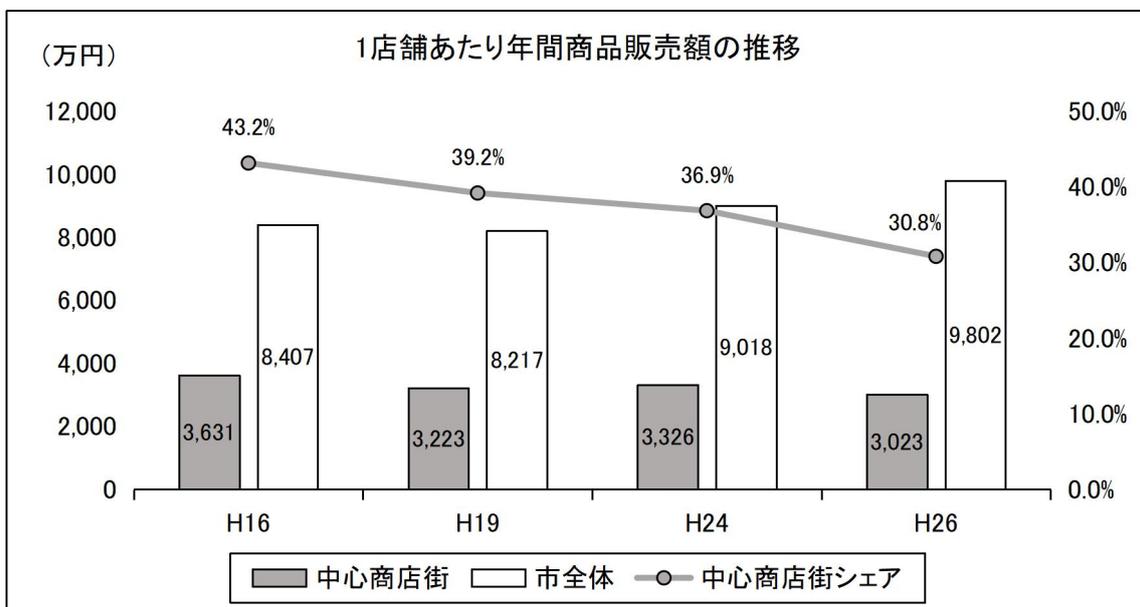
中心商店街における年間商品販売額は、平成16年から平成24年までの間に41億3,100万円、およそ30%減少している。また、市全体に占める中心商店街の割合は1.2%減少している。



資料：「平成26年商業統計調査結果を基にした高山市の商業」

エ 1店舗あたり年間商品販売額

中心商店街における1店舗あたり年間商品販売額は、平成16年から平成24年までの間に305万円、およそ8%減少している。また、市全体に占める中心商店街の割合は6.3%減少している。

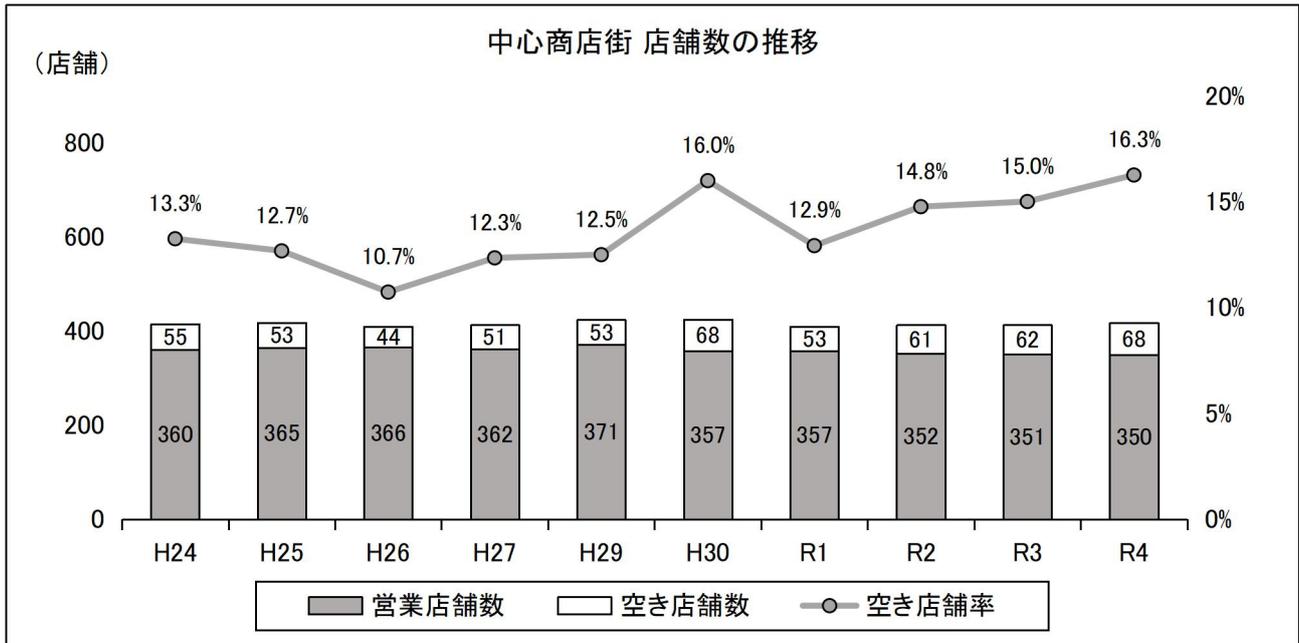


資料：「平成26年商業統計調査結果を基にした高山市の商業」

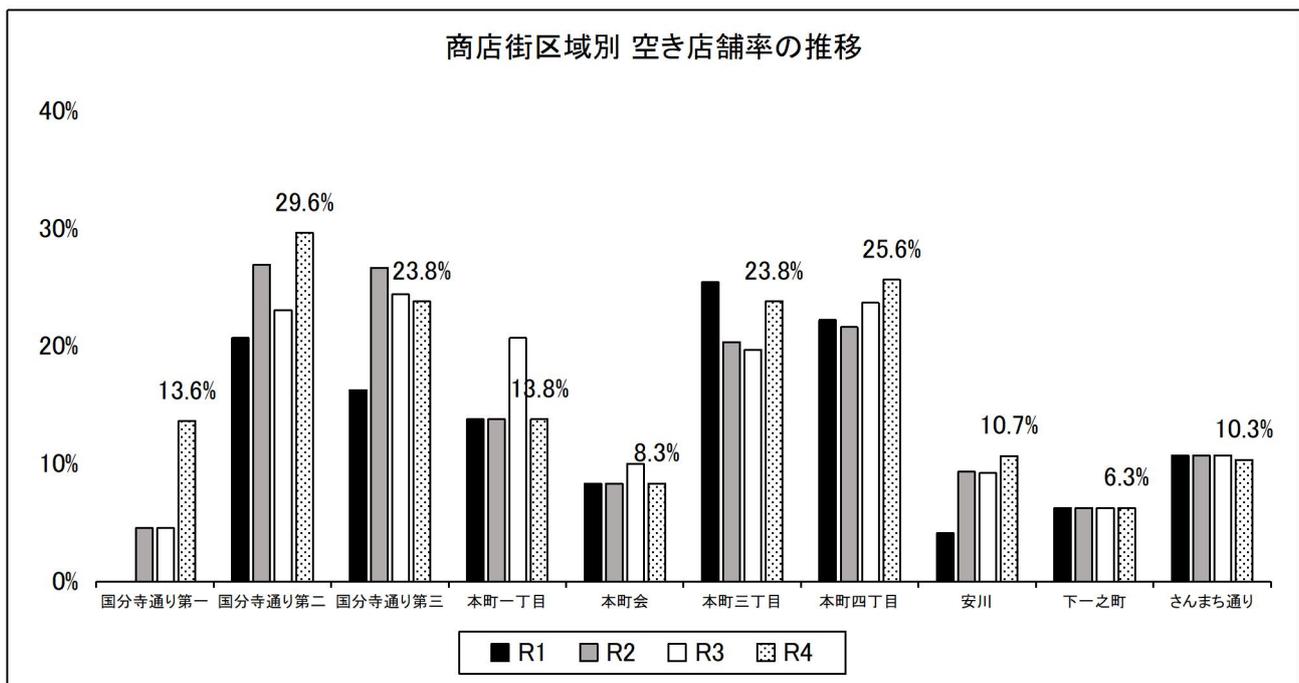
② 空き店舗の状況

中心商店街における空き店舗は、平成24年から令和4年までの10年間で13店舗増加し、空き店舗率は3.0%上昇している。また、営業店舗数(※)は平成24年から増加傾向にあったものの、平成29年を境に減少の傾向が見られる。商店街区域別では、観光の中心となっている「古い町並」からの距離が離れるほど空き店舗率が上昇する傾向が見られる。

※営業店舗数は、小売業・飲食業・サービス業等の事業所の数

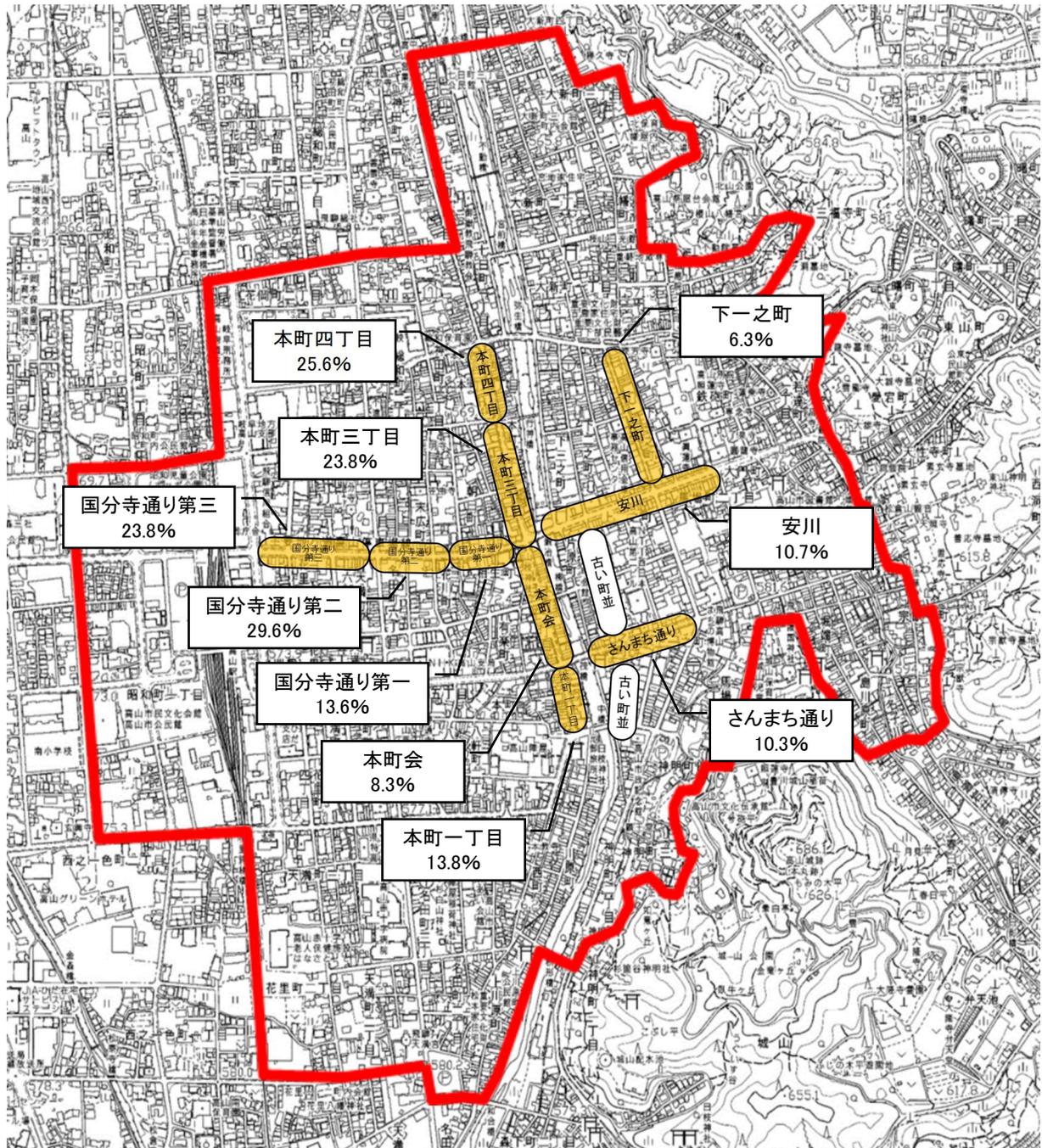


資料：株式会社まちづくり飛騨高山「営業店舗、空き店舗調査」



資料：株式会社まちづくり飛騨高山「営業店舗、空き店舗調査」

○商店街区域別の空き店舗率（令和4年）



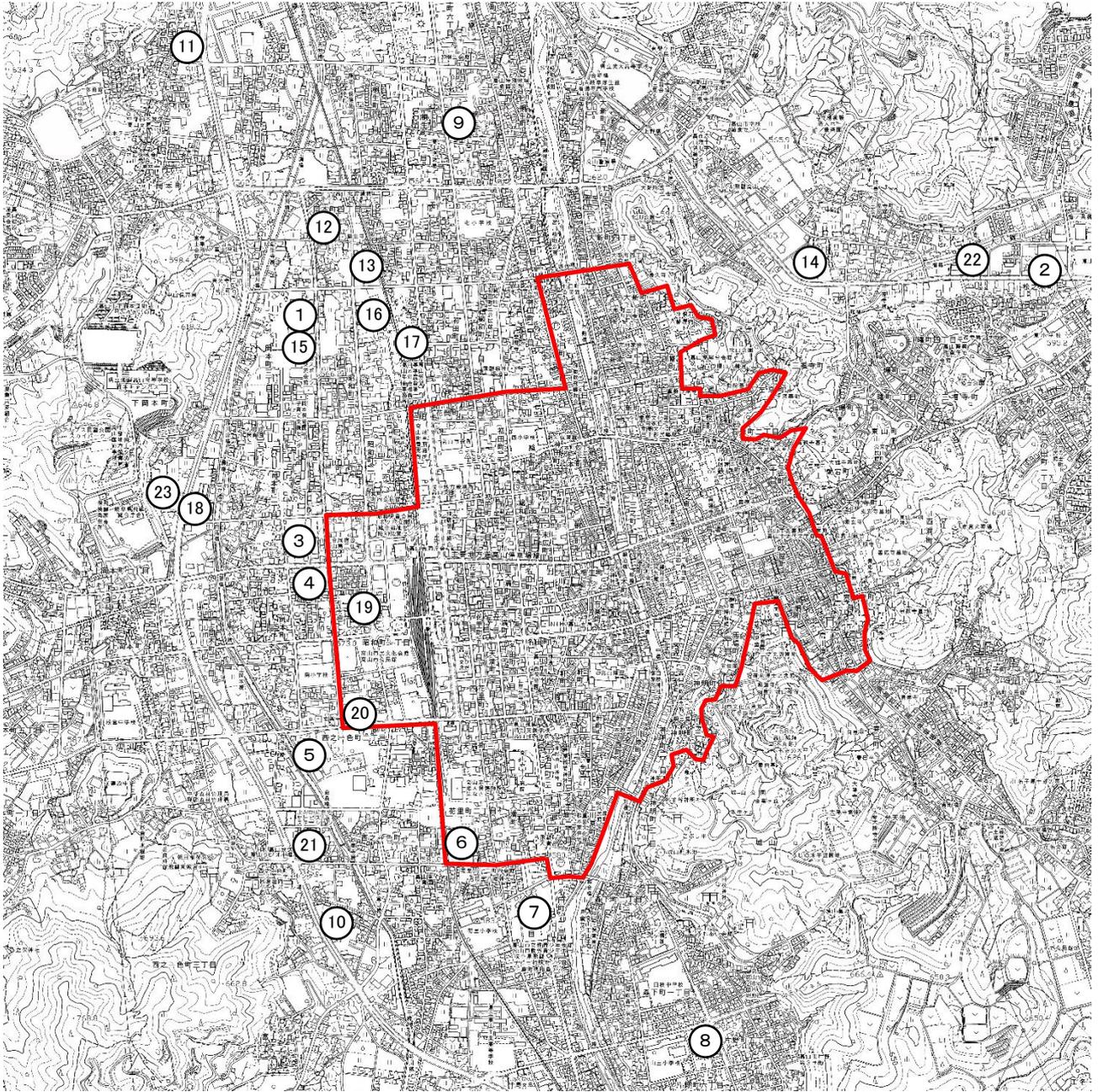
③ 大規模小売店舗の状況

中心市街地及びその周辺には大規模小売店舗数が 22 店舗あり、そのうち 3 店舗が中心市街地に位置している。

位置番号	開設年月	店舗面積(㎡)	施設名称	住所
1	1997.11	9,967	ルビットタウン高山	岡本町 3 丁目
2	2015.11	2,725	駿河屋・エブリ東山店	松之木町
3	1995.9	4,597	駿河屋アスモ店・ブックスアイオー	岡本町 2 丁目
4	1995.4	1,938	BOSS・FOODSMARKET本店	岡本町 1 丁目
5	1976.1	1,181	飛驒物産館	西之一色町 2 丁目
6	2011.4	1,638	スーパーマーケットバロー高山南店	花里町 2 丁目
7	2012.11	6,137	フレスポ飛驒高山	天満町 1 丁目
8	1997.3	1,115	ファミリーストアさとう石浦店	石浦町 2 丁目
9	2019.10	1,633	ファミリーストアさとう桐生店	桐生町 2 丁目
10	1993.6	8,056	ピュア高山店	西之一色町 3 丁目
11	2004.6	2,365	ケーズデンキ高山店	下岡本町
12	2005.10	1,295	ファッションセンターしまむら高山店	岡本町 4 丁目
13	1997.11	1,424	ヒマラヤスポーツ高山店	岡本町 4 丁目
14	2012.11	2,392	ゲンキー高山三福寺店	三福寺町
15	2017.10	1,397	Vドラッグ高山中央店	岡本町 3 丁目
16	2007.12	1,921	西松屋飛驒高山店	昭和町 3 丁目
17	1979.12	1,485	ジャンボあらかき花岡店	花岡町 3 丁目
18	2010.4	3,306	エディオン高山店	上岡本町 7 丁目
19	1993.5	2,970	ゲオ高山昭和店	昭和町 1 丁目
20	2000.7	1,350	FKショッピングセンター飛驒高山店	昭和町 1 丁目
21	1977.7	2,504	ホームセンターバロー高山店	西之一色町 3 丁目
22	2022.11	1,246	ドラッグコスモス松之木店	松之木町
23	2023.12	3,432	ニトリ高山店	上岡本町 7 丁目

資料：高山市都市計画課「都市計画基礎調査」

○中心市街地内及びその周辺の大規模小売店舗



④ 観光業の状況

ア 中心市街地の観光資源

本市の中心市街地には、飛騨高山を代表する江戸時代の面影を残す古い町並や、国内に唯一現存する徳川幕府の郡代・代官役所の高山陣屋、国の重要文化財に指定されている吉島家住宅や日下部民藝館、天然記念物の大銀杏が見事な飛騨国分寺などの観光資源が集積している。

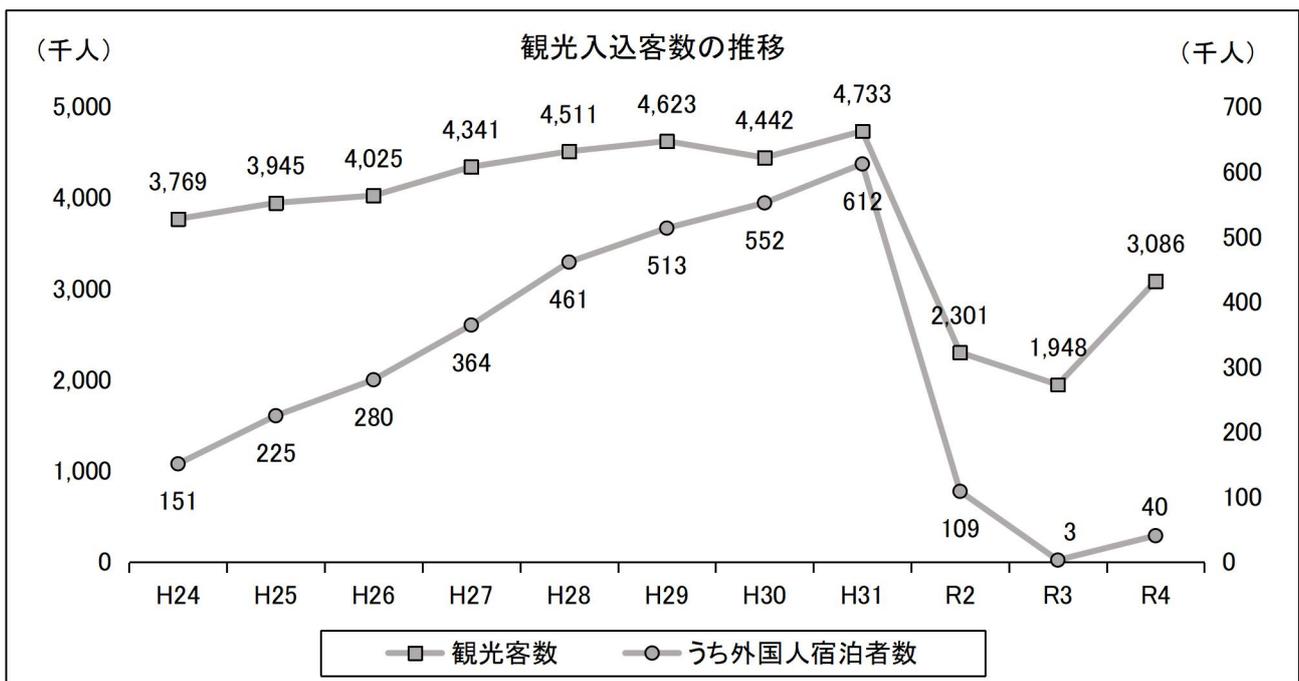
また、日本三大美祭に数えられる春（4月14・15日）と秋（10月9・10日）の高山祭では、国の重要有形民俗文化財に指定されている屋台が町を巡る、曳き廻しやからくり奉納などの伝統的な祭り行事が行われる。

さらに、夏には手筒花火や陣屋前夜市、秋には高山の郷土料理やグルメが楽しめる飛騨の味まつり、冬には市内にある酒蔵のお酒が楽しめる7蔵のん兵衛まつりなど、季節に合わせたイベントが定期的に行われている。

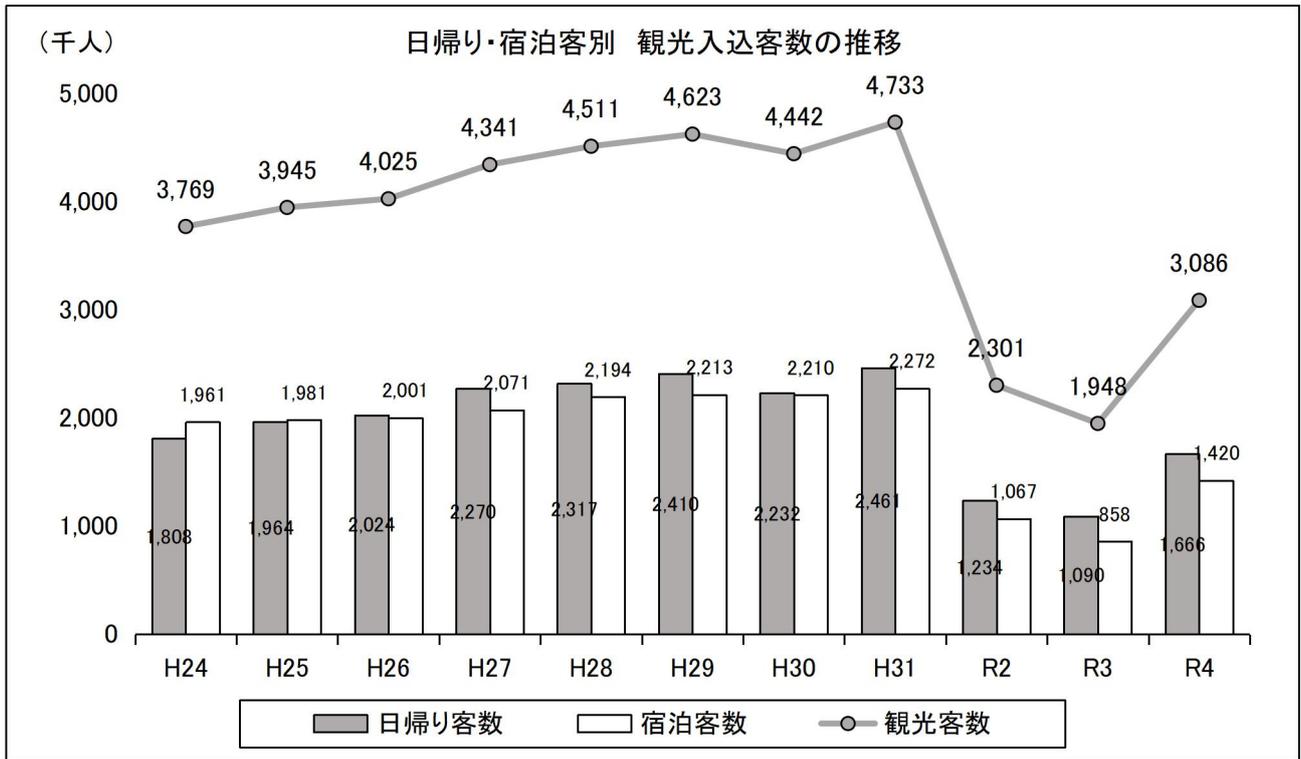
イ 高山市の観光入込客数の推移

本市の観光入込客数は、豊富な観光資源があることで年々増加傾向にあり、平成31年には約470万人を超え過去最高を記録した。特に外国人観光客数の増加が顕著で、平成31年の宿泊者数は年間60万人を超えた。しかしながら、令和2年は新型コロナウイルス感染症の影響により前年より半減し、平成17年の市町村合併以降、最低の入込客数となり、令和3年は更に195万人まで落ち込んだ。その後、令和4年は岐阜県が新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置区域の指定を1月から3月まで受けるなど影響はあったものの、徐々に行動制限が緩和されたことで入込客数は309万人まで回復し、前年と比較し58.42%の増加となった。

また、外国人観光客については、令和4年6月以降に観光目的の入国受入れ再開や、段階的な水際対策の緩和がなされたことで、令和4年は宿泊ベースで40,493人となり、前年（2,993人）と比較し1,352.9%の増加となった。



資料：高山市観光統計

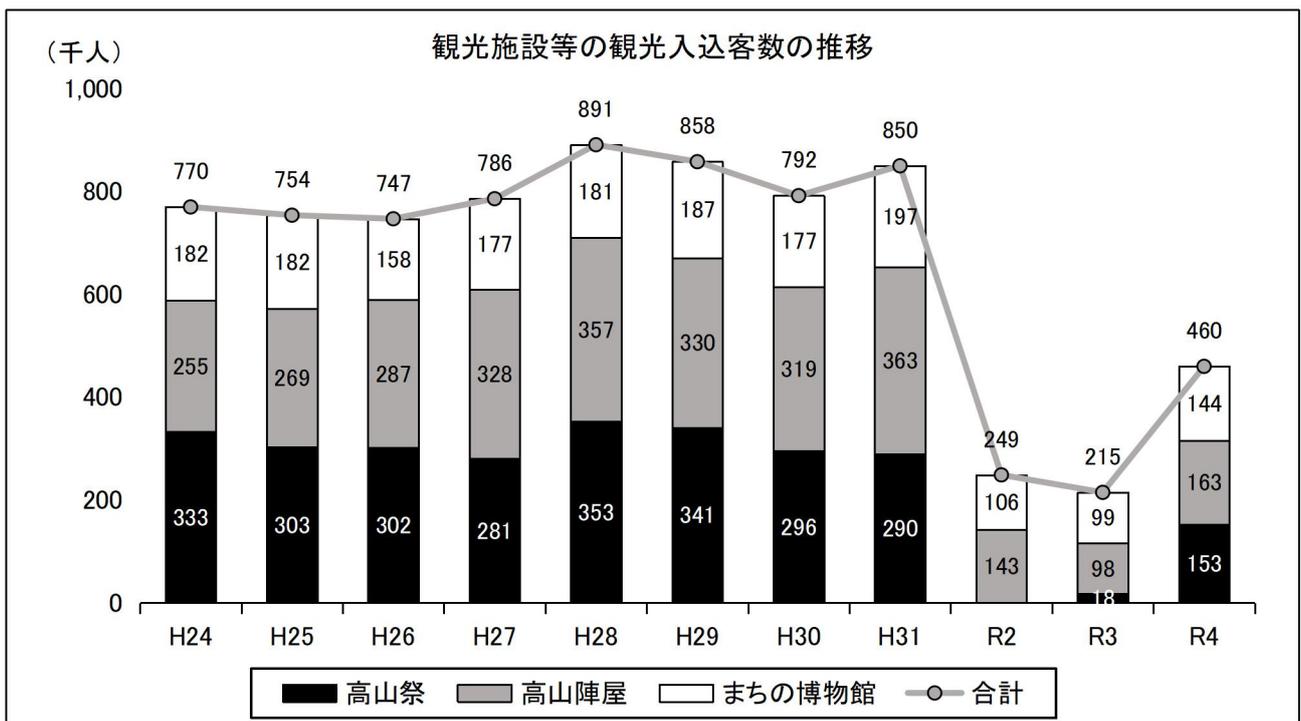


資料：高山市観光統計

ウ 中心市街地における観光施設等の観光入込客数の推移

中心市街地で開催される高山祭の人出数（※）や、中心市街地に所在する高山陣屋、まちの博物館の入館者数の合計は、市全体の観光入込客数と同様に、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年には前年の3割程度まで減少したが、令和4年には回復の兆しが見られる。

※高山祭の令和2年及び令和3年の秋は屋台行事中止につき調査未実施

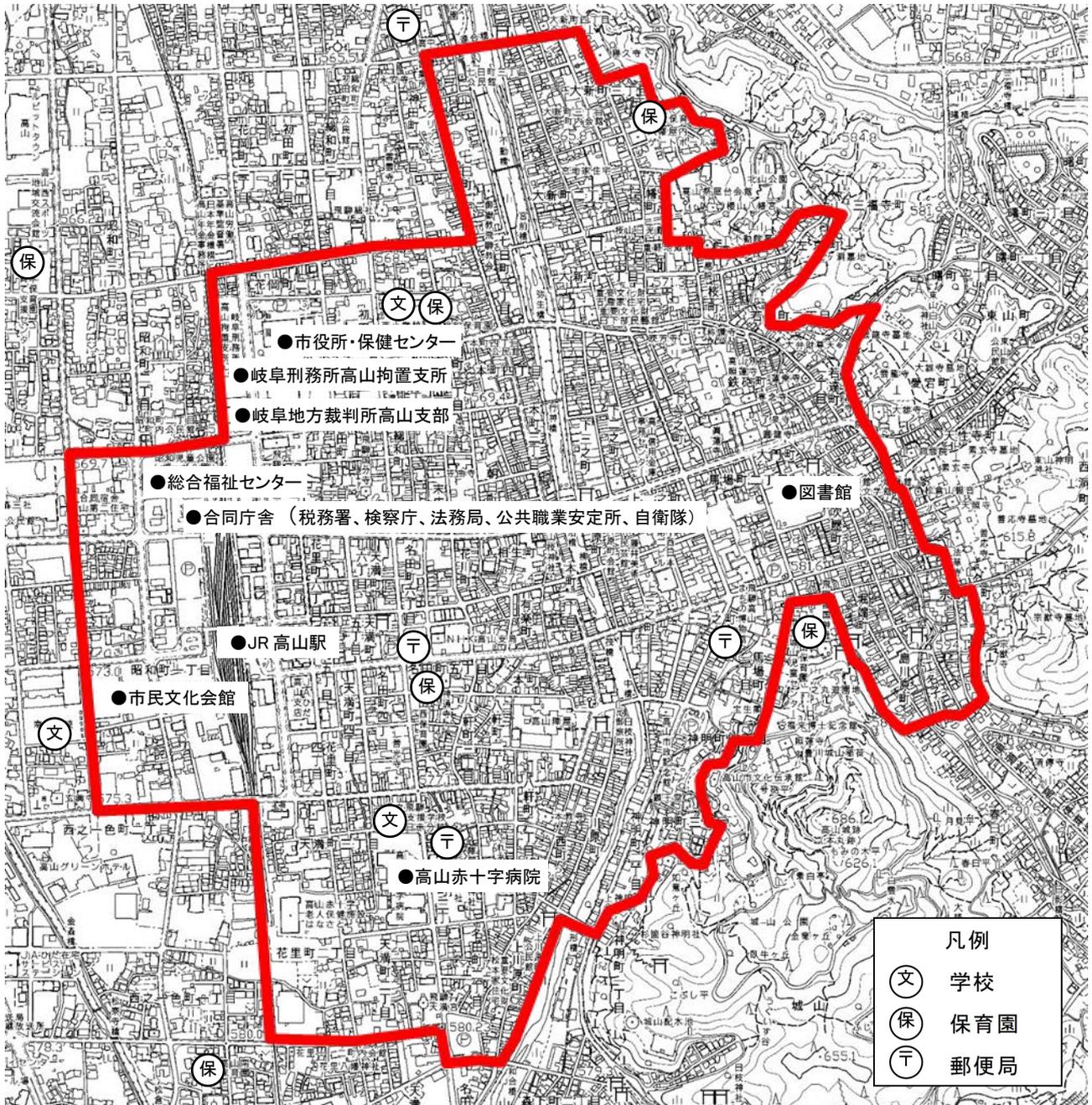


資料：高山市観光統計

⑤ 公共公益施設の状況

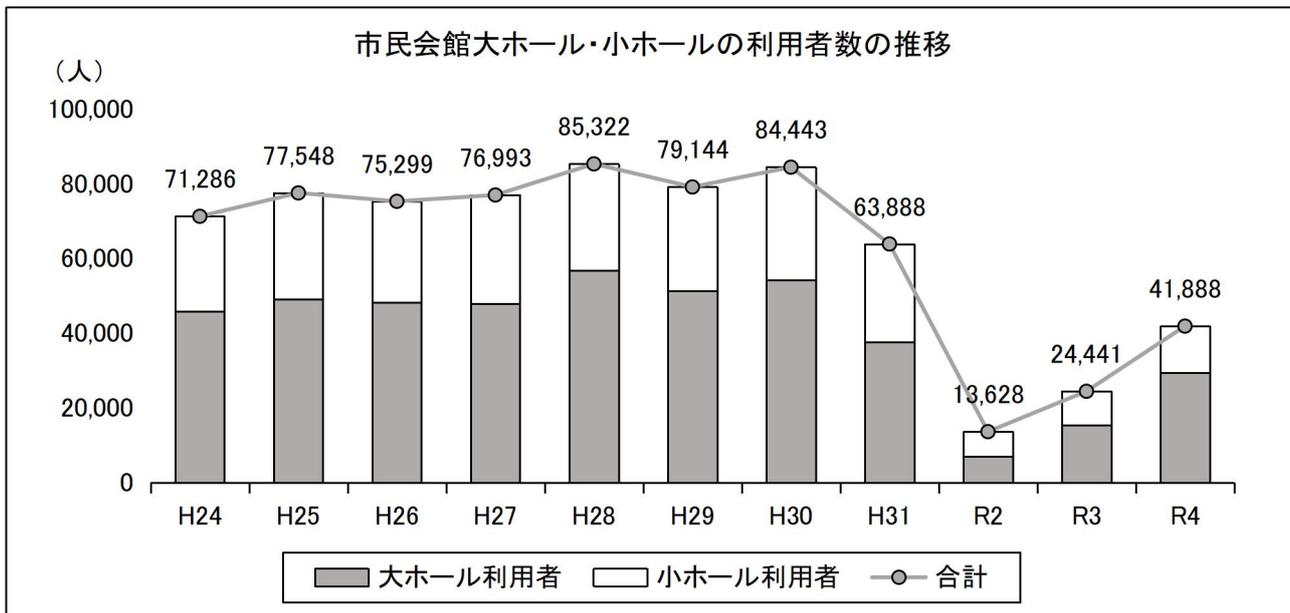
ア 都市機能の集積状況

本市の中心市街地には、市役所、JR高山駅、図書館、市民文化会館、総合病院など、多くの公共施設が位置し、都市機能が集積している状況にある。



イ 公共公益施設の利用状況

市民文化会館のホール利用者数は平成 30 年度にかけて増加傾向が続いていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和 2 年度にかけて大幅に減少した。その後、令和 3 年度からは増加に転じている。



資料：高山市生涯学習課

ウ 都市公園の整備状況

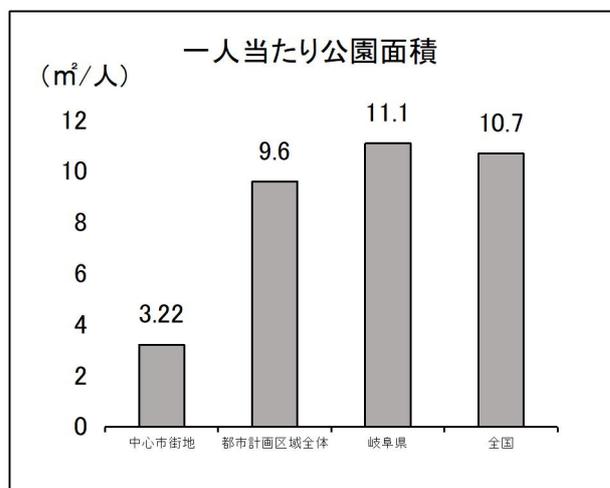
市内には都市公園が 36 施設あるが、そのうち 8 施設が中心市街地内に位置しており、都市公園面積は市全体では 62.77ha、中心市街地では 2.86ha である。

一人当たりの都市公園面積を見ると、中心市街地では 3.22 m²/人であり、都市計画区域全体 (9.60 m²/人) や岐阜県 (11.1 m²/人)、全国 (10.7 m²/人) と比較すると低い水準にある。

本市の中心市街地は建築物の密集する古い城下町の形態をよく残しているため、用地の確保ができなかったことから公園の整備が進んでいない。

○中心市街地の都市公園一覧 (令和 4 年)

公園名	面積 (ha)
宮川水辺ふれあい公園	2.23
七日町広場	0.03
中橋公園	0.03
川上別邸史跡公園	0.11
市民広場	0.12
昭和児童公園	0.26
大雄寺広場	0.05
まちの博物館公園	0.03
合計	2.86



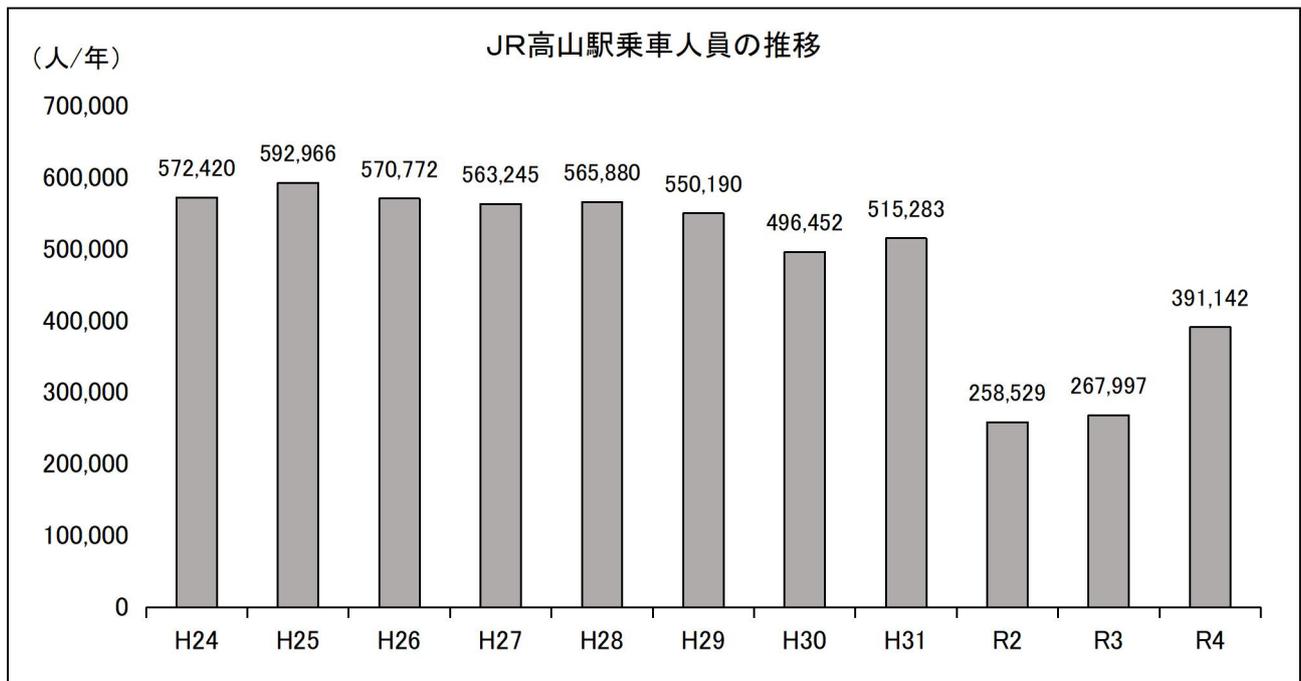
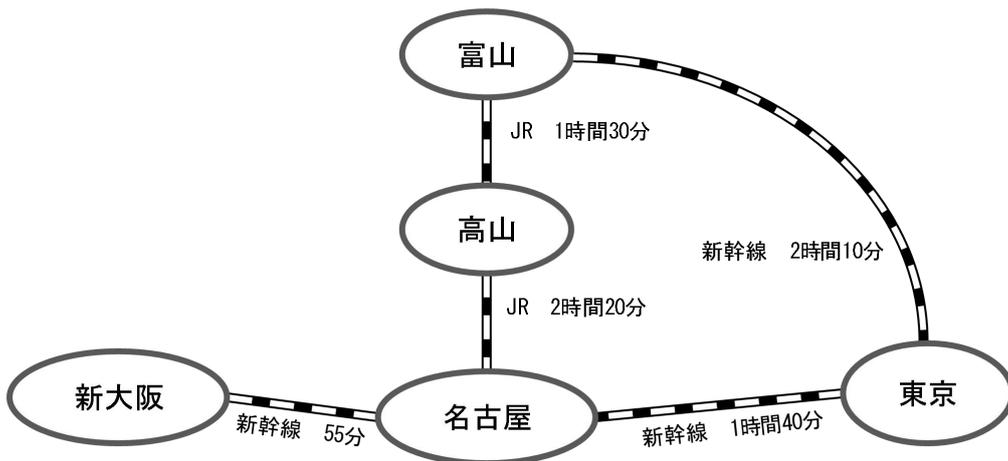
資料：高山市都市計画課

⑥ 交通の状況

ア JR高山駅の利用状況

市外からの鉄道によるアクセスは、名古屋から約2時間20分、富山から約1時間30分となっている。JR高山駅の乗車人員は、高速道路の整備等により減少が続いていたが、平成24年度以降は横ばいの状況にあった。その後、新型コロナウイルス感染症の影響により観光入込客数が減少したことで、令和2年度には前年度と比較し半減している。

○鉄道による高山へのアクセス



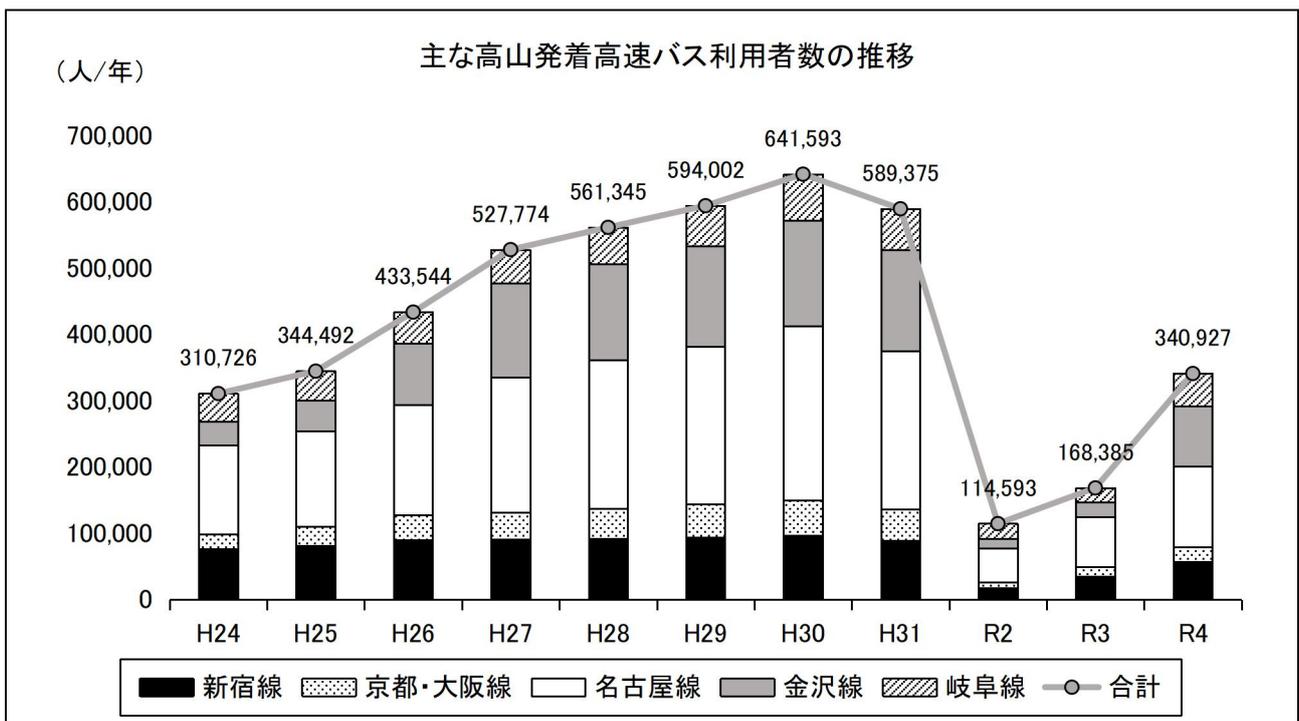
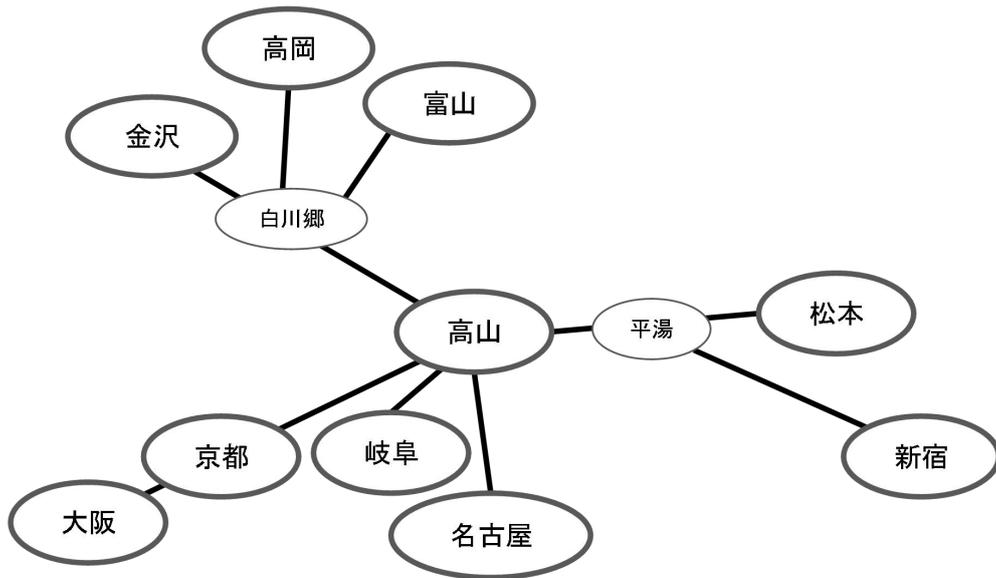
資料：東海旅客鉄道株式会社

イ 高速バスの利用状況

本市を発着する高速バスについては、新宿線、京都・大阪線、名古屋線、岐阜線、金沢線、高岡線、富山線、松本線の8つの路線がある。

高速バスの利用者数は、安房トンネルの開通や東海北陸自動車道の全通による時間短縮、運行便数の増加により増加傾向にあったが、新型コロナウイルス感染症の影響により観光入込客数が減少したことで、令和2年度は大幅に減少した。その後は観光客の復調に伴い、大幅な増加傾向がみられる。

○高速バスによる高山へのアクセス

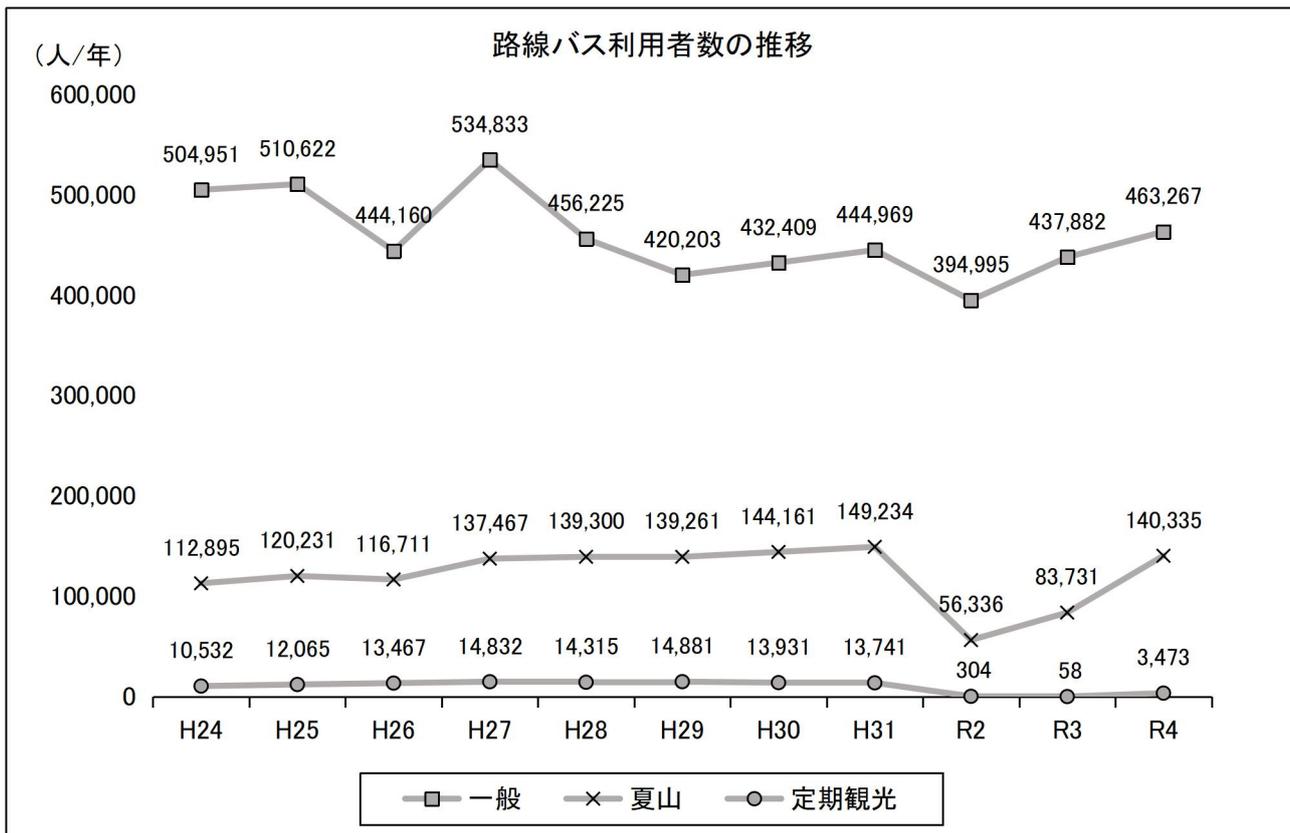


資料：濃飛乗合自動車株式会社

ウ 路線バスの利用状況

路線バスについては、一般路線（主に朝日線、荘川線、国府・上宝線、古川・神岡線、高山下呂線、平湯・新穂高線）、夏山路線（上高地線、乗鞍線）、定期観光路線（白川郷線ほか）が運行している。

路線バスの利用者数は、登山や観光としての利用が見込まれる夏山路線や定期観光路線は、新型コロナウイルス感染症の影響により観光入込客数が減少したことで、令和2年度は大幅に減少した。その後は観光客の復調に伴い、特に夏山路線で大幅な増加傾向がみられる。一方、主に市民が利用する一般路線では減少傾向となっている。



資料：濃飛乗合自動車株式会社

エ 自主運行バスの利用状況

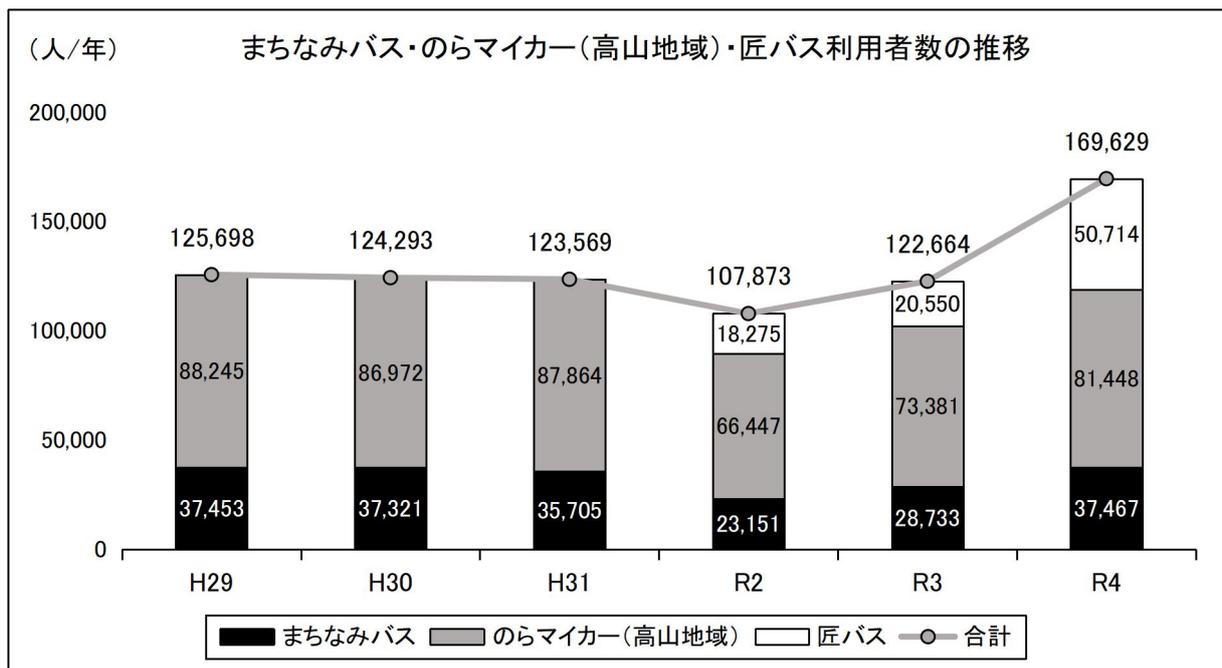
市の自主運行バス「のらマイカー（※1）」「まちなみバス（高山地域）（※2）」の利用者数は横ばいが続いていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度には減少に転じた。中でも観光入込客数が半減したのに対し減少幅は3割程度でおさまっていることから市民利用が多いと考えられる。

また、令和2年度に運行を開始した観光特化型バス「匠バス（※3）」については、観光客の復調に伴い、大幅な増加傾向がみられる。

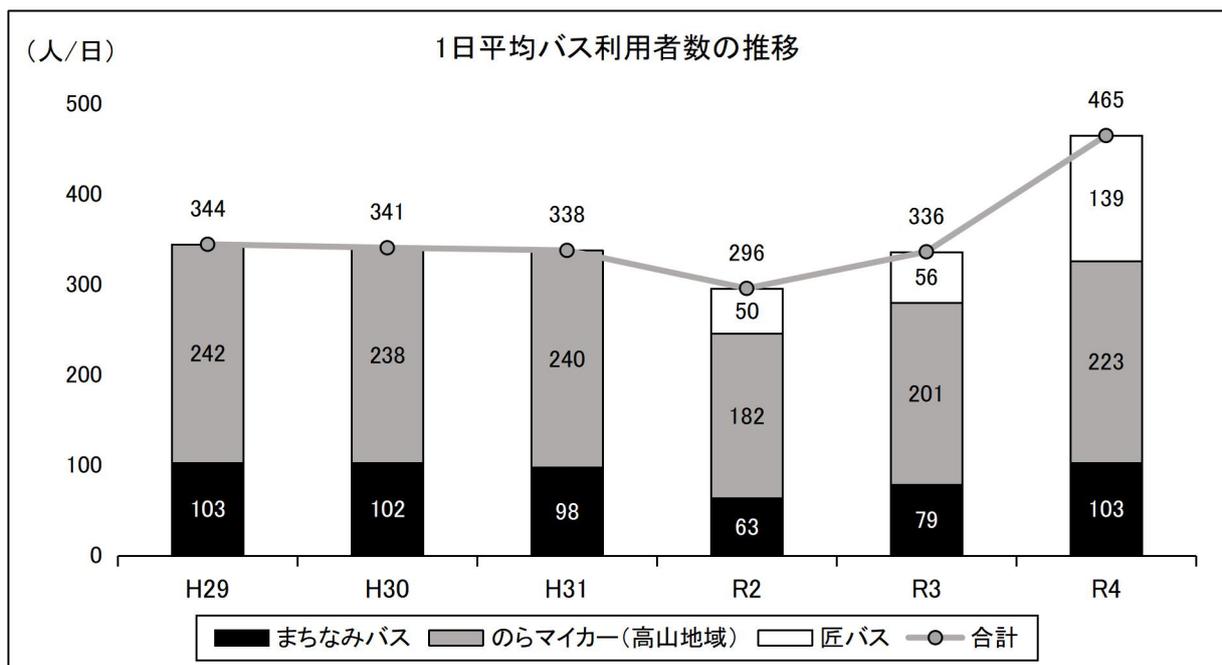
※1 市内各地域内の移動を確保し、主要なバス停（交通結節点）で路線バスに接続

※2 中心市街地の公共施設や病院、商店街、観光施設などを短時間で巡回

※3 高山駅や市街地外縁部の大型駐車場と古い町並や飛騨の里などの観光エリアを短時間で接続

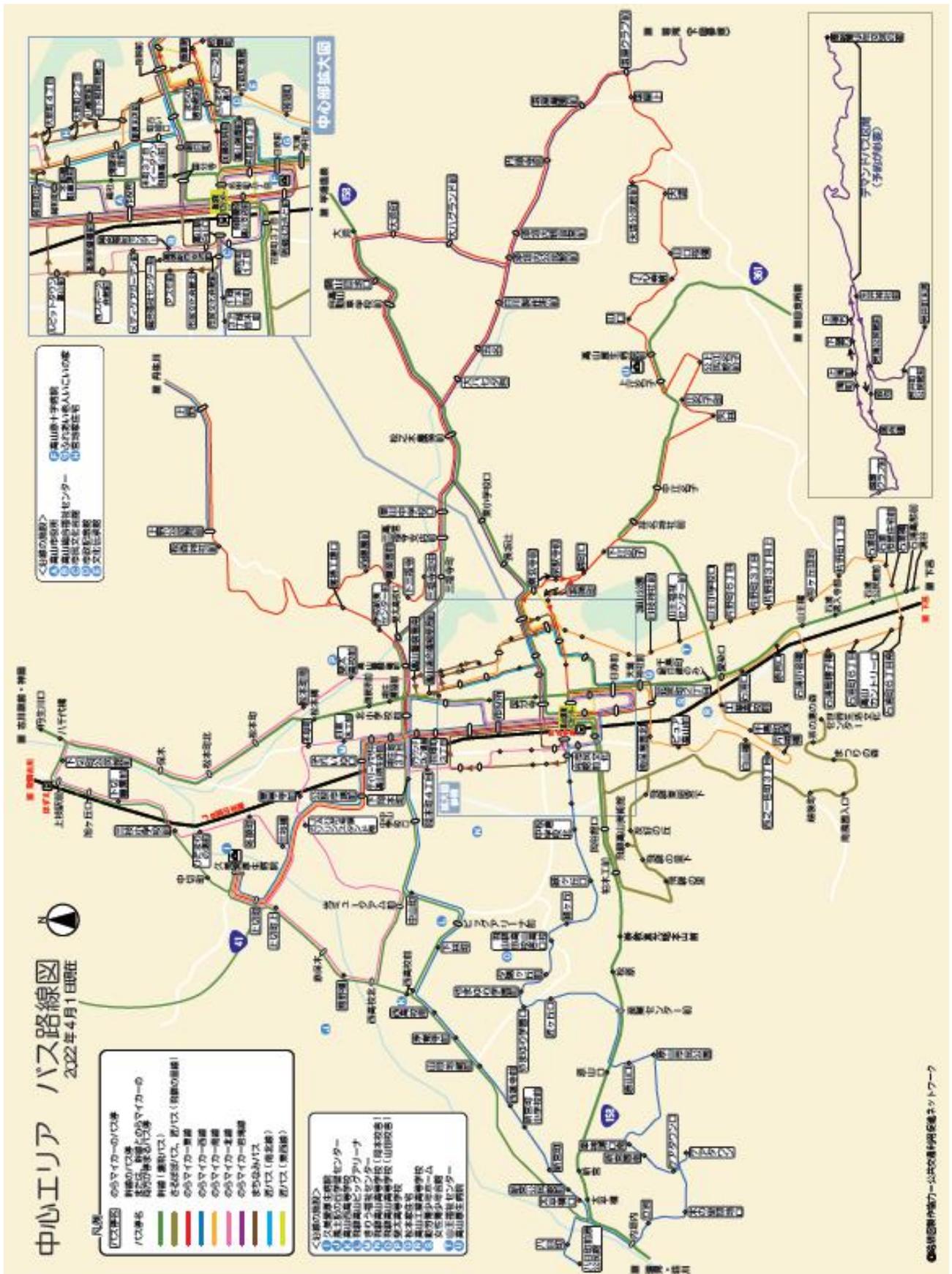


資料：高山市都市計画課

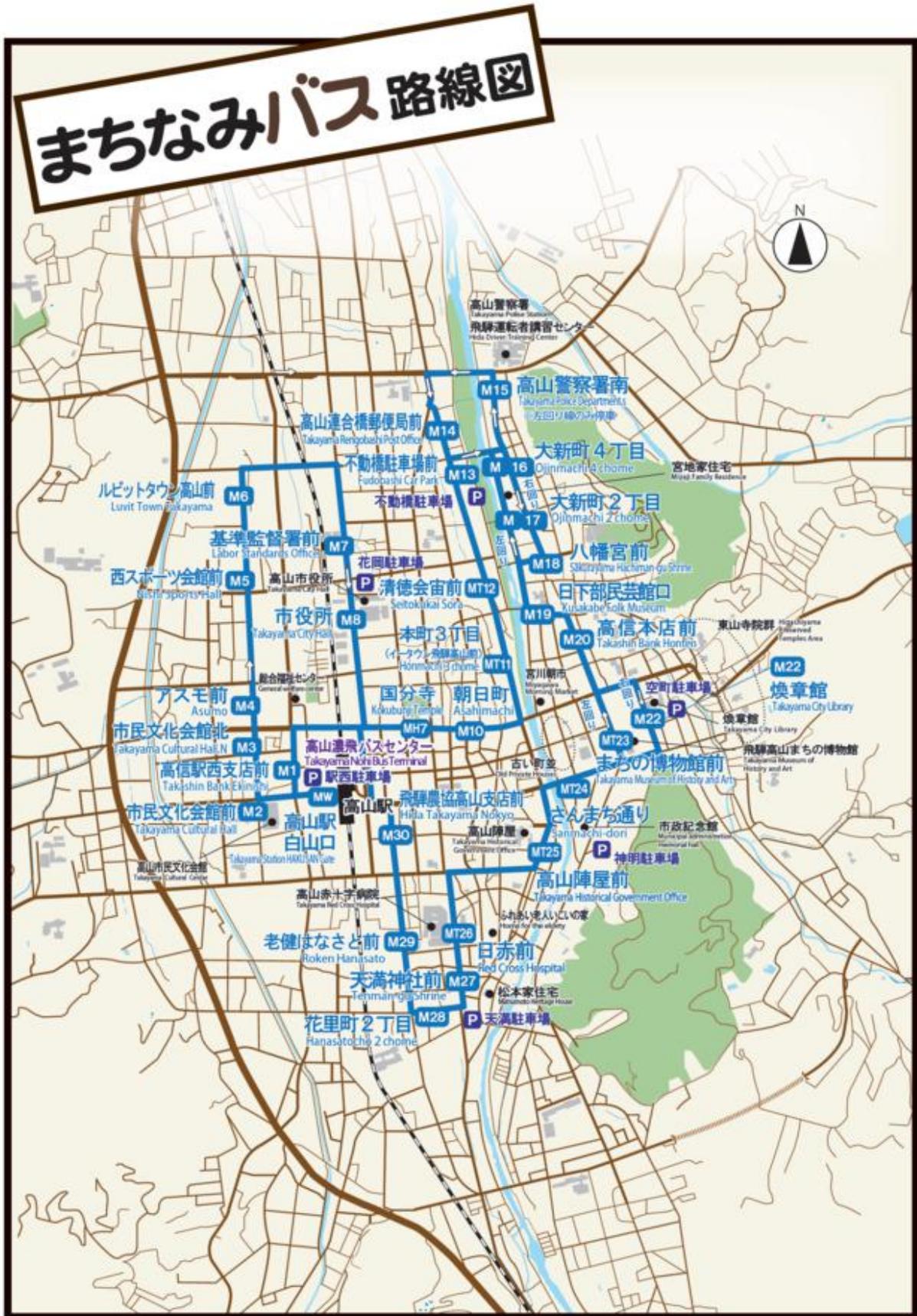


資料：高山市都市計画課

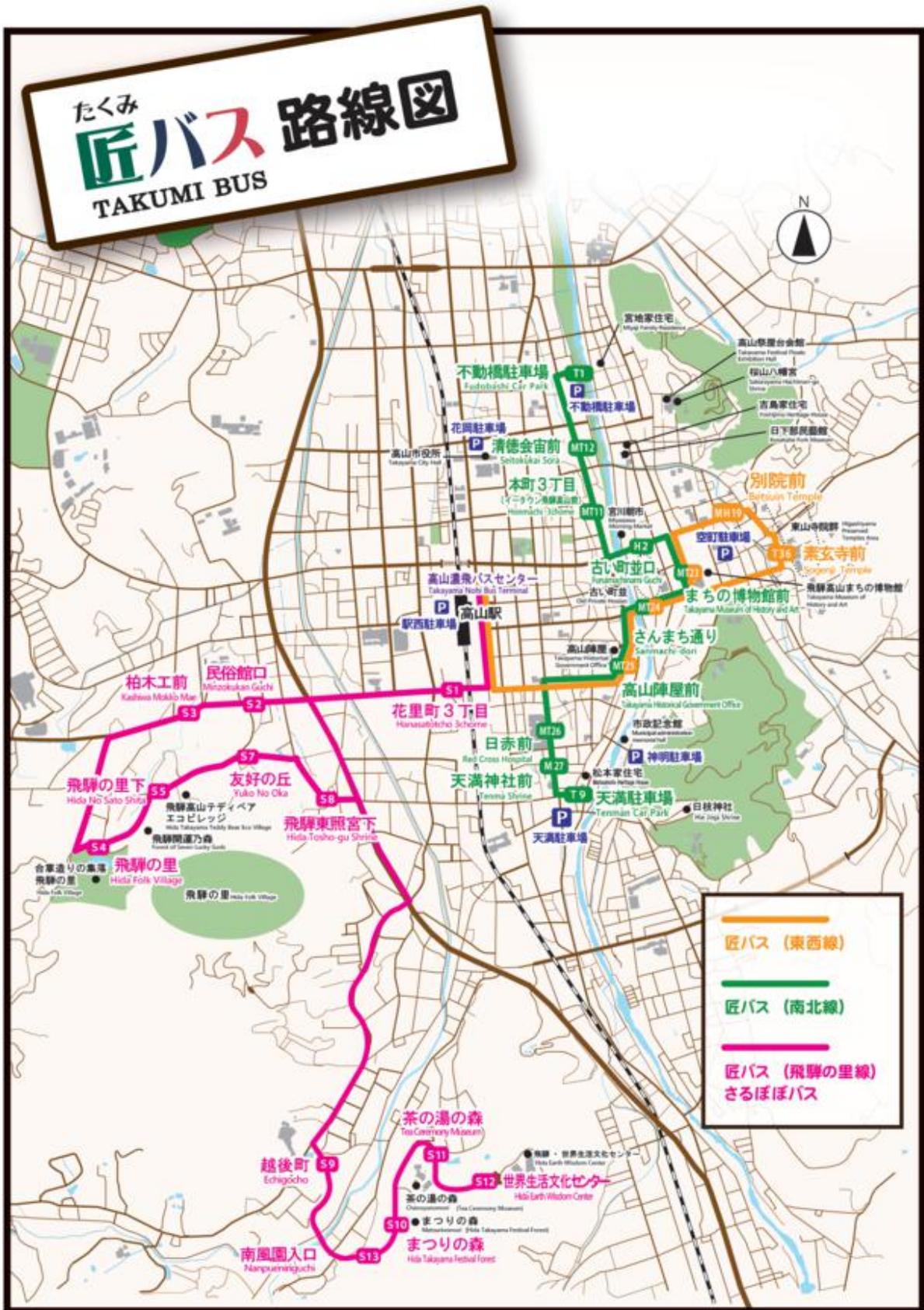
○のらマイカー路線図



○まちなみバス路線図



○匠バス路線図



オ 駐車場の利用状況

本市の駐車場整備地区（市街地中心部約129ha）には、時間貸の公共駐車場が12箇所、民間駐車場が45箇所あり、収容台数は普通車2,338台、大型車106台である（R3年調査結果）。ピーク時の需給比率は平日で普通車53%、大型車27%、休日で普通車71%、大型車49%であり、平日の駐車場利用は飛騨（地元）ナンバーとその他ナンバーの比率が6：4であるのに対し、休日は3：7となっており、休日は観光目的の需要が多くなっている（R元年調査結果）。

また、目的地により近い駐車場を求めて、一部の地区に駐車需要が集中し駐車待ちが発生している一方、利用率の低い駐車場も見られる。

駐車場供給量推移（H26、R元、R3）

年度	公共駐車場				民間駐車場				合計							
	箇所数	収容台数(台)			箇所数	収容台数(台)			箇所数	増減	収容台数(台)					
		普通車	大型車	計		普通車	大型車	計			普通車	増減	大型車	増減	計	増減
H26	11	1,042	37	1,079	38	1,050	65	1,115	49	－	2,092	－	102	－	2,194	－
R元	12	954	47	1,001	44	1,348	59	1,407	56	7	2,302	210	106	4	2,408	214
R3	12	954	47	1,001	45	1,384	59	1,443	57	1	2,338	36	106	0	2,444	36

資料：高山市都市計画課

駐車場利用状況（H26、R元）

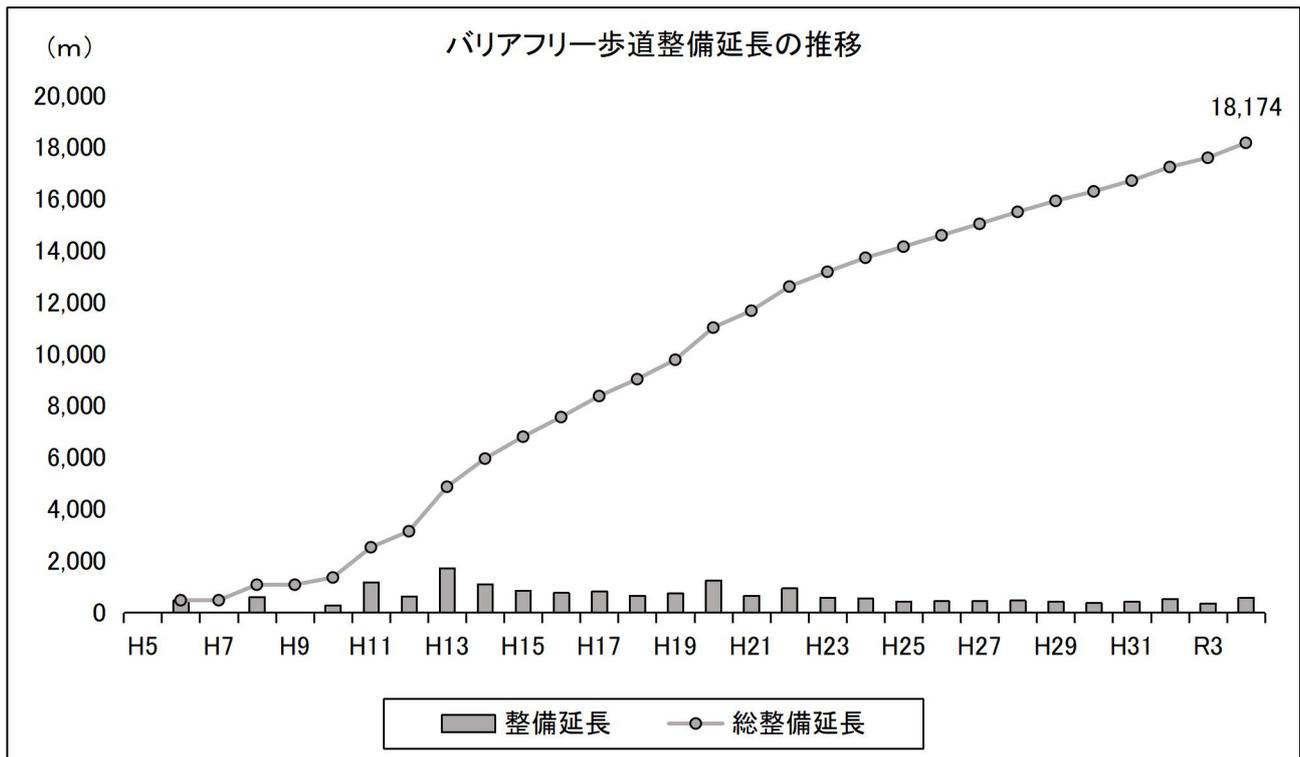
調査日	平成26年				令和元年				令和元年と平成26年の増減比較			
	11月13日(木) 平日		11月16日(日) 休日		11月7日(木) 平日		11月10日(日) 休日		11月 平日		11月 休日	
車種	普通車	大型車	普通車	大型車	普通車	大型車	普通車	大型車	普通車	大型車	普通車	大型車
駐車台数 ピーク時間帯	14～15時	11～12時	14～15時	14～15時	14～15時	14～15時	14～15時	14～15時	11月平日大型車 11～12時⇒14～15時			
ピーク時 駐車待ち台数	0台	5台	7台	2台	0台	0台	8台	0台	±0台	△5台	1台	△2台
ピーク時 需給比率	50%	33%	71%	31%	53%	27%	71%	49%	3%	△6%	±0%	18%
ナンバー比率	飛騨69% その他31%		飛騨37% その他63%		飛騨57% その他43%		飛騨30% その他70%		飛騨△12% その他+12%		飛騨△7% その他+7%	
ピーク時に 満車となった 駐車場数	2箇所		7箇所		3箇所		14箇所		+1箇所		+7箇所	

資料：高山市都市計画課

⑦ 歩行者ネットワークの状況

国道 41 号が中心市街地西に南北にあり、国道 158 号が中心市街地中央部を東西に通っている。南北方向は県道・市道幹線等の道路は一部改良が進んでいるものの、中心市街地内の道路は幅員の狭い所が多く、歩道のないものや歩道があっても段差の大きいものがあり、特に高齢者等の交通弱者にとっては快適とは言えないため、バリアフリー化が進められている。

中心市街地における歩道のバリアフリー化は平成 10 年度以降増加しており、平成 10 年度当時の延長実績が 1,350m であったのに対して、令和 4 年度には 18,174m に達している。



資料：高山市維持課

⑧ 歩行者自転車通行量（歩行者通行量調査）

ア 調査概要

- 調査日 毎年 11 月
- 調査時間 10:00～12:00、13:00～17:00
- 調査地点 中心市街地内 5 箇所
 - ①本町通り（南）※本町 1・2 丁目 ②本町通り（北）※本町 3・4 丁目
 - ③国分寺通り ④安川通り ⑤さんまち通り
- 歩行者の定義 歩行者とは歩行者、自転車及び車椅子とし、下記のものとは除くこととする。
 - ・ベビーカーに乗っている子ども
 - ・人に抱えられている子ども
 - ・自転車に同乗する子ども
 - ・人力車の車夫及び搭乗者
- 調査主体 株式会社まちづくり飛騨高山

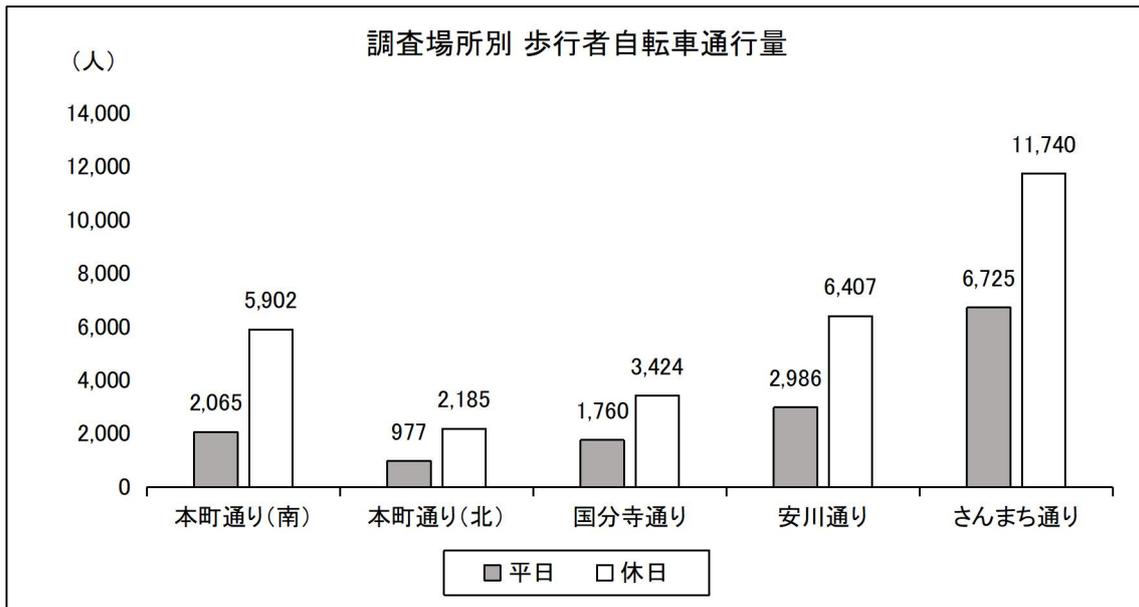
イ 調査結果

中心市街地の主要な通りにおける歩行者自転車通行量は、本市を代表する観光地である「古い町並」に接する「さんまち通り」が平日・休日ともに最も多い。次いで多いのが「安川通り」で、ここは二つの伝統的建造物群保存地区に隣接しており、アーケードが整備されていることで、より歩行しやすい空間が創出されていることが理由と考えられる。

歩行者自転車通行量 調査結果（R4 年）

（単位：人）

	調査場所	調査日	時間						合計
			10:00	11:00	13:00	14:00	15:00	16:00	
①	本町通り(南) ※1・2 丁目	11/9(水)	285	336	513	432	280	219	2,065
		11/5(土)	614	976	1,356	1,177	1,087	692	5,902
②	本町通り(北) ※3・4 丁目	11/9(水)	187	225	120	162	133	150	977
		11/5(土)	345	345	462	386	319	328	2,185
③	国分寺通り	11/9(水)	254	286	277	339	280	324	1,760
		11/5(土)	465	512	702	624	608	513	3,424
④	安川通り	11/9(水)	390	582	806	454	410	344	2,986
		11/5(土)	855	1,040	1,471	1,392	970	679	6,407
⑤	さんまち通り	11/9(水)	1,016	1,153	1,512	1,256	1,059	729	6,725
		11/5(土)	1,543	2,000	2,018	2,269	2,312	1,598	11,740



歩行者自転車通行量の推移 (平日)

(単位：人)

	調査場所	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
①	本町通り(南)	1,518	1,425	2,141	1,823	3,171	2,930	1,680	2,065
②	本町通り(北)	1,121	855	1,138	1,138	1,195	1,265	994	977
③	国分寺通り	2,033	1,280	2,190	2,044	1,993	1,465	1,020	1,760
④	安川通り	3,613	3,555	3,784	3,614	3,748	3,820	3,150	2,986
⑤	さんまち通り	6,243	4,373	6,156	6,354	6,571	6,206	3,830	6,725
	合計	14,528	11,488	15,409	14,973	16,678	15,686	10,674	14,513

歩行者自転車通行量の推移 (休日)

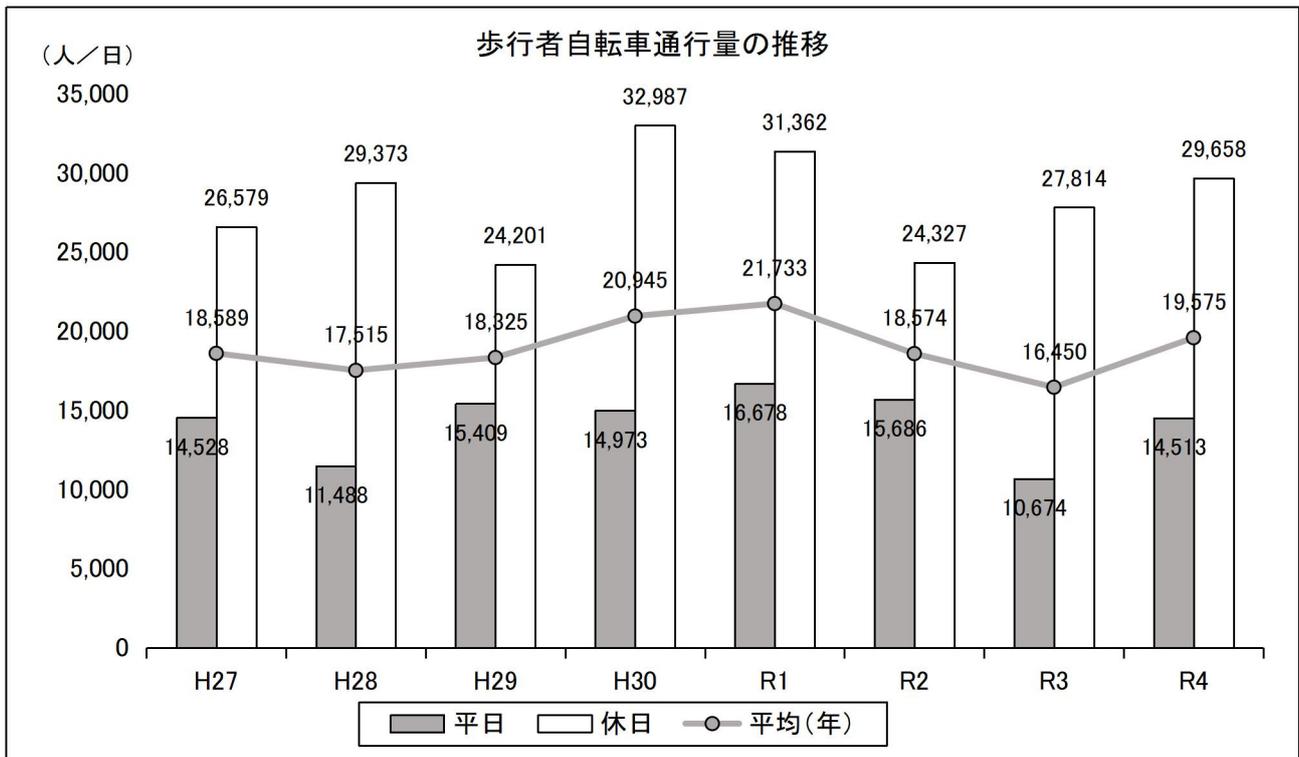
(単位：人)

	調査場所	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
①	本町通り(南)	3,132	4,011	3,739	5,298	4,344	3,696	5,575	5,902
②	本町通り(北)	1,788	2,156	1,823	2,313	1,912	1,844	1,777	2,185
③	国分寺通り	2,570	3,143	2,960	3,791	3,433	1,854	2,828	3,424
④	安川通り	7,710	8,260	6,628	8,247	7,766	5,718	6,837	6,407
⑤	さんまち通り	11,379	11,803	9,051	13,338	13,907	11,215	10,797	11,740
	合計	26,579	29,373	24,201	32,987	31,362	24,327	27,814	29,658

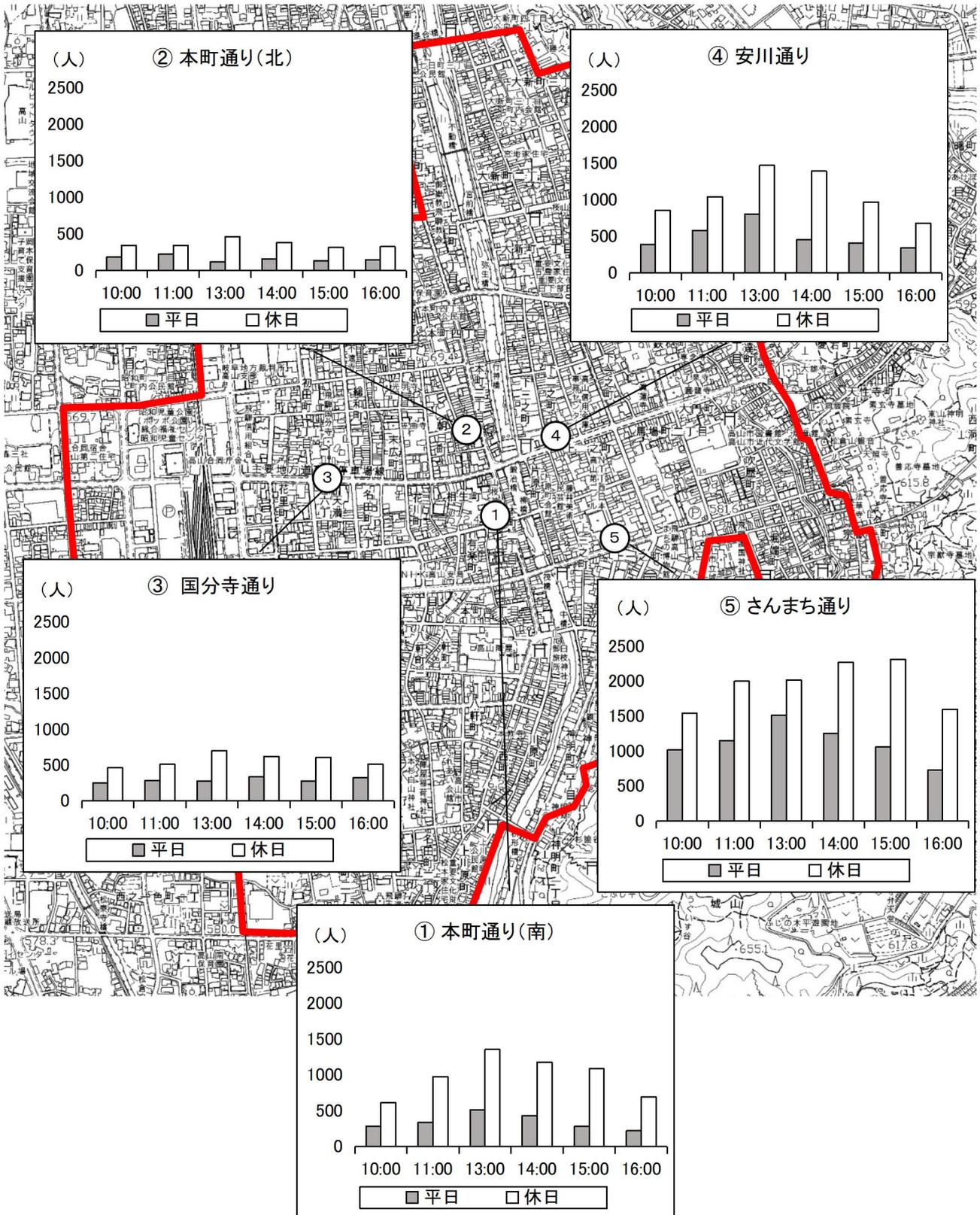
平均歩行者自転車通行量の推移

(単位：人)

	平日(a)	休日(b)	平均通行量 (a*平日数+b*休日数)/年間日数
H27	14,528	26,579	18,589
H28	11,488	29,373	17,515
H29	15,409	24,201	18,325
H30	14,973	32,987	20,945
R1	16,678	31,362	21,733
R2	15,686	24,327	18,574
R3	10,674	27,814	16,450
R4	14,513	29,658	19,575



○歩行者自転車通行量調査結果（令和4年）



⑨ 地価（公示地価）の状況

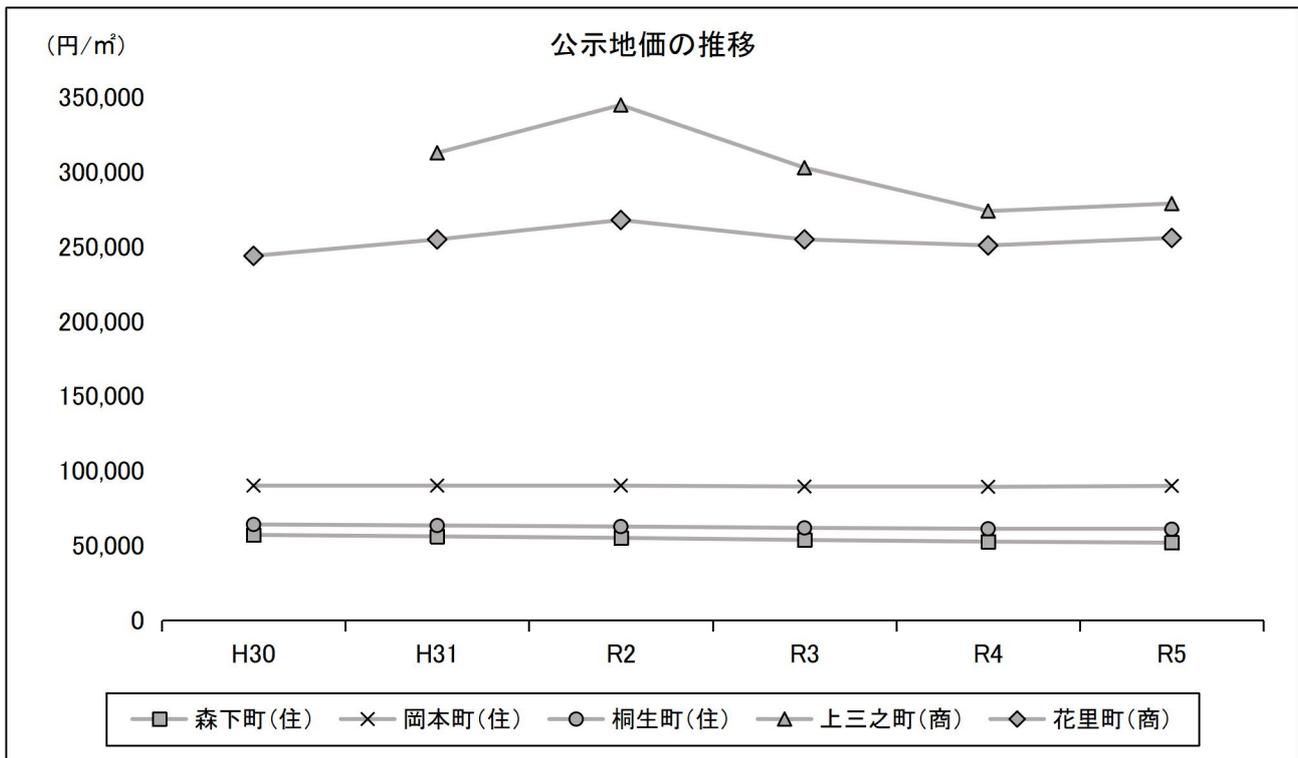
本市の中心市街地の地価（公示地価）は、商業地域と住宅地域との差が大きく、上三之町（商業地域）は森下町（住宅地域）と比較して約5倍となっている。

商業地域では令和2年度をピークに下落傾向が続いていたが、令和5年度には上昇傾向がみられる。その一方で住宅地域はほぼ横ばいの状況が続いている。

中心市街地及び周辺の公示地価

（単位：円/㎡）

	所在	H30	H31	R2	R3	R4	R5
①	森下町(住)	57,200	56,200	55,200	53,800	52,700	52,000
②	岡本町(住)	90,200	90,200	90,200	89,600	89,400	90,000
③	桐生町(住)	64,200	63,500	62,800	61,900	61,300	61,000
④	上三之町(商)	—	313,000	345,000	303,000	274,000	279,000
⑤	花里町(商)	244,000	255,000	268,000	255,000	251,000	256,000



資料：国土交通省地価公示

○地価公示地点と公示地価の推移

